

会場までのアクセス

JR 武蔵小金井駅・北口より

【京王バス】

〔5番バス停〕「小平団地」行に乗車、約10分。「学芸大正門」下車

〔6番バス停〕「中大循環」に乗車、約10分。「学芸大東門」下車

JR 国分寺駅より

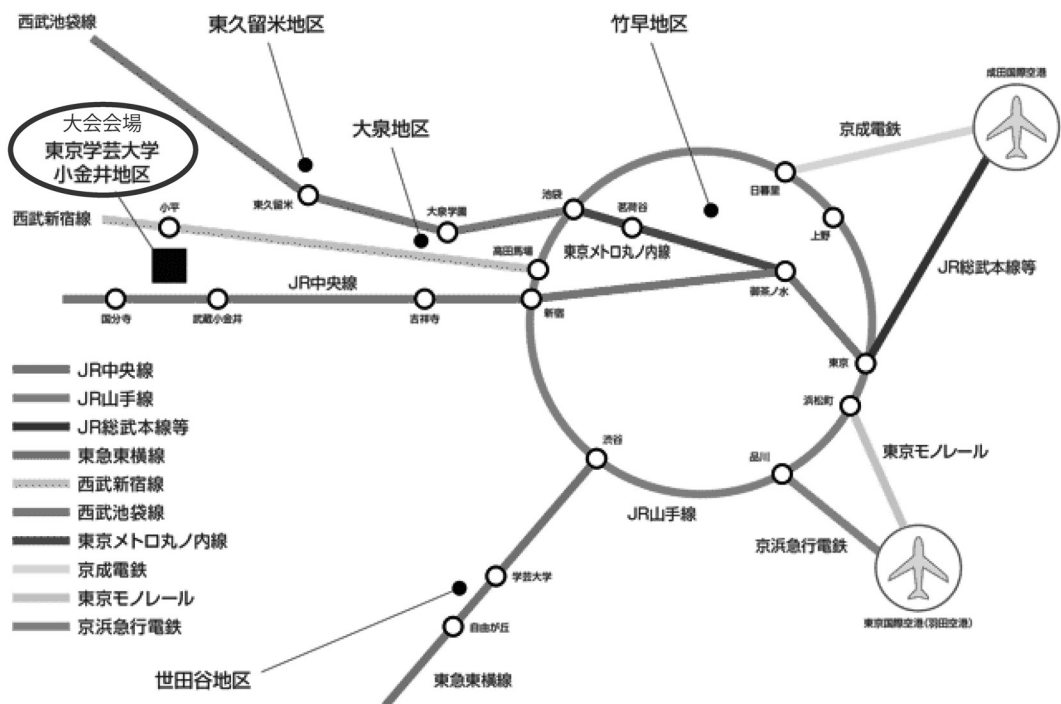
【銀河鉄道バス】「国分寺駅入口」より「小平駅南口」行に乗車、約10分「学芸大学」下車

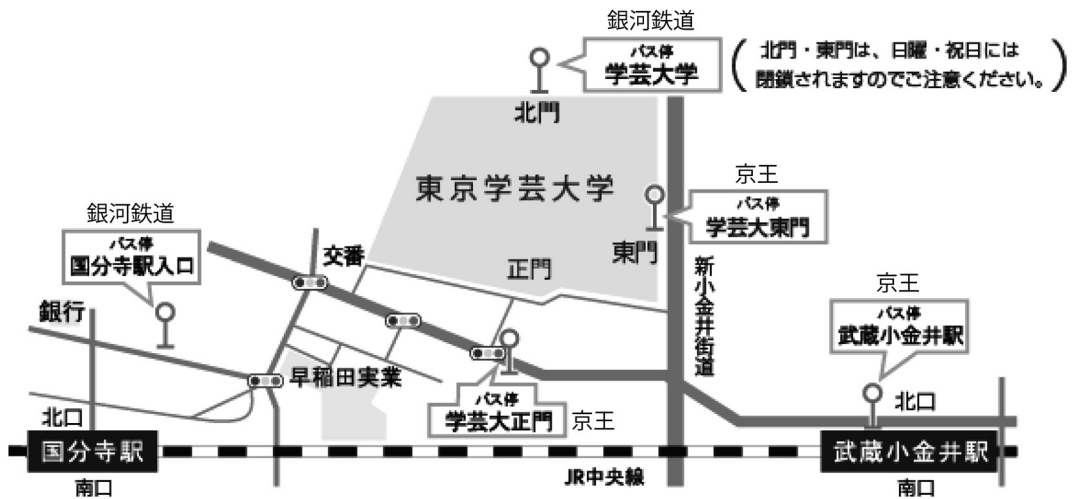
【徒歩】約20分（JR 国分寺駅北口 → 早稲田実業学校 → 連雀通り／小金井市保健センター前）

西武新宿線小平駅南口より

【銀河鉄道バス】「国分寺駅入口」行に乗車、約15分「学芸大学」下車

※関係者以外の自動車での入構を遠慮いただいておりますので、お越しの際は公共の交通機関をご利用ください。





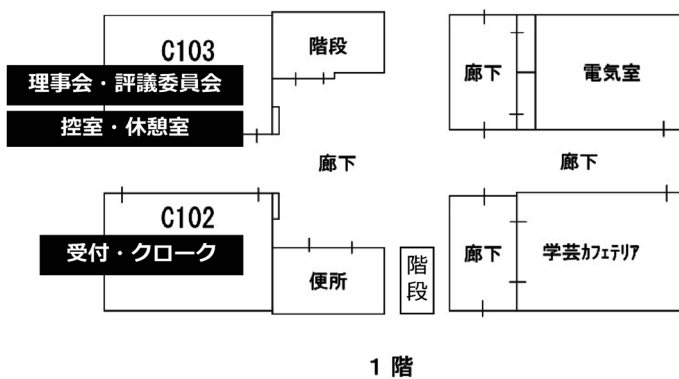
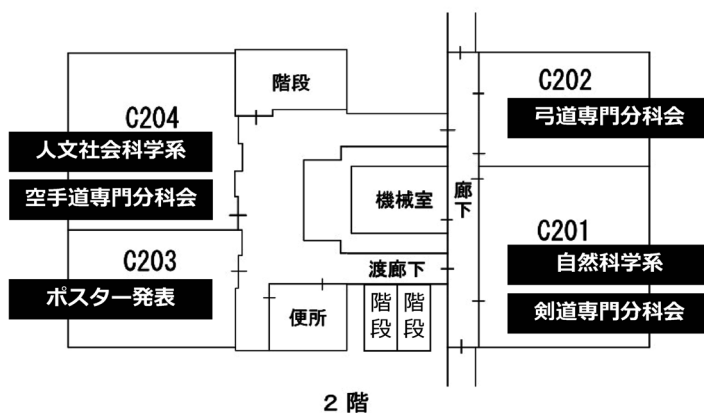
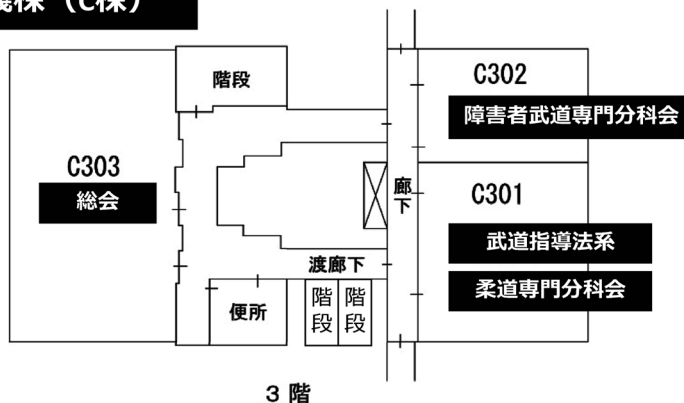
小金井キャンパスマップ Koganei Campus Map



会場案内図

大会案内図
日程
演題一覧他

中央講義棟 (c棟)



日本武道学会第 51 回大会開催概要

大 会 名	日本武道学会第 51 回大会
会 期	平成 30 年 9 月 4 日 (火)・9 月 5 日 (水)
会 場	東京学芸大学 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
主 催	日本武道学会
大会委員長	國分 充
大会実行委員長	奥村基生
大会事務局長	久保田浩史
大会委員	射手矢岬 松井高光

参加者の皆さまへ

1. 参加受付は、C 棟 1 階エントランスホールにて下記の時間帯で行います。
9 月 4 日（火） 8 : 00 ～ 15 : 00
9 月 5 日（水） 8 : 00 ～ 12 : 00
2. 会員は受付で大会参加費（正会員 3,000 円、学生会員 1,000 円）を納めてください。
なお平成 30 年度会費未納の方は、参加費と併せて納めてください。
3. 大会参加章（ネームカード）をお渡ししますので、会期中は必ず着用してください。
参加章を着用していない場合、入場および傍聴をお断りすることがあります。
4. 臨時で大会に参加される方は、受付で臨時会員とお申し出の上、臨時参加費（一般 3,000 円、学生 1,000 円）を納め、大会参加章と『研究発表抄録』をお受け取りください。総会以外は、全て会員と同じ待遇を受けることができます。
5. 会員の方は『研究発表抄録』を持参してください。プログラムの配付は行いません。
6. 大会期間中、食堂は営業しています。
場所：第 1 食堂
営業時間：11 : 30 ～ 13 : 30
7. 駐車スペースはありませんので、公共交通機関をご利用ください。
8. 宿泊は各自でご手配ください。
9. 大会前日の 9 月 3 日（月）に、学会大会懇親会を 18 時から第 2 食堂の 1 階で会費制（4,000 円）にて開催致します。どなたでも参加できますので是非お越しください。また、顧問・名誉会員の方々もご参加ください。

演者の皆さまへ

1. 発表形式は、口頭発表（発表 12 分、質疑応答 3 分）またはポスター発表（発表 5 分、質疑応答は随時）です。
2. 口頭発表の演者は、発表開始 30 分前までに発表会場受付で受付を済ませてください。その際、配付資料（100 部）がある演者は提出をお願い致します。
3. 口頭発表でパーソナルコンピュータ（PC）を使用する演者は、各自で PC を持参してください。また必要な付属品類（電源アダプター等）は必ず持参してください。特に Macintosh では、変換コネクタが必要な場合がありますのでご注意ください。
4. ポスター発表の演者は、発表会場受付で受付を済ませ、午前 9 時までに所定の場所にポスターを掲示してください。
5. ポスターは、180 cm × 90 cm の掲示用ボードに収まるようご準備ください。
6. ポスター発表の演者は、指定された日の午前 10 時から 1 時間、各自のポスターの前で待機し、座長の指示に従ってください。
7. 原則として演者の変更は認めません。但し、急病等のやむを得ない場合は、学会本部へ速やかに連絡し、本部の指示に従ってください。

座長の皆さまへ

1. ご担当される演題の発表時間 30 分前までに、発表会場受付で受付を済ませてください。
2. 口頭発表は、発表 12 分、質疑応答 3 分の計 15 分です。発表時間の厳守にご協力ください。合図は、発表終了 2 分前で第 1 鈴、発表終了・質疑応答開始で第 2 鈴、質疑応答終了で第 3 鈴を鳴らすことになっています。
3. 口頭発表での質疑応答では、質問者に対し「所属・氏名を述べた後、簡潔に質問・意見を述べる」ようご指示ください。
4. ポスター発表は、発表 5 分、質疑応答は随時行う形式とします。ご担当される演題の発表が全て終了した後、随時質疑応答がなされることになります。質疑応答は演者が直接対応することになりますので、座長は必ずしもその場にいらなくて結構です。